

# 鴨川河川整備計画検討委員会 第1回資料 (河川及び流域の概要)



平成20年6月13日

京都府建設交通部河川課・京都土木事務所

# 目次

## 1. 河川及び流域の概要

①流域の概要	1
②河道の特性	2
③気象特性	3
④地形・地質	4
⑤土地利用	5

## 2. 鴨川の歴史

①平安京と鴨川	6
②まち、人との関わり	7
③暴れ川であった鴨川	8

## 3. 最近の取り組み

①鴨川流域懇談会	9
②鴨川条例	10
③鴨川府民会議	11



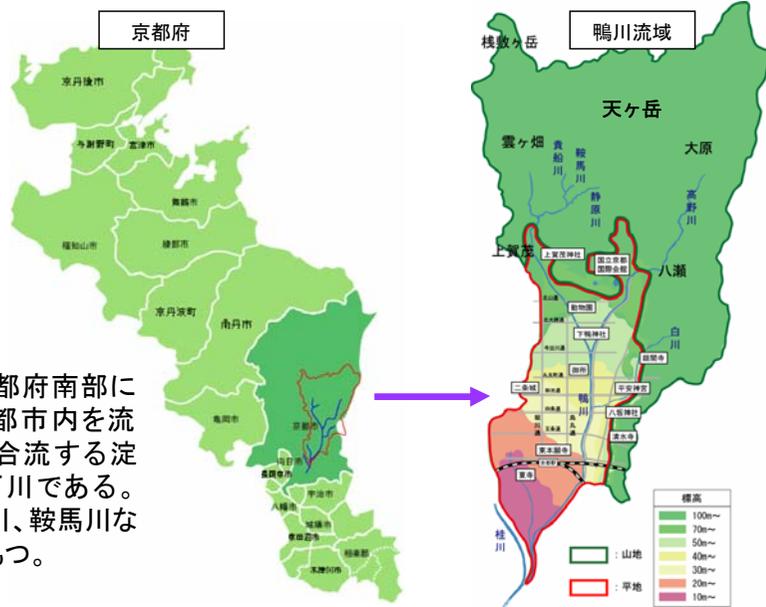
鴨川のユリカモメ



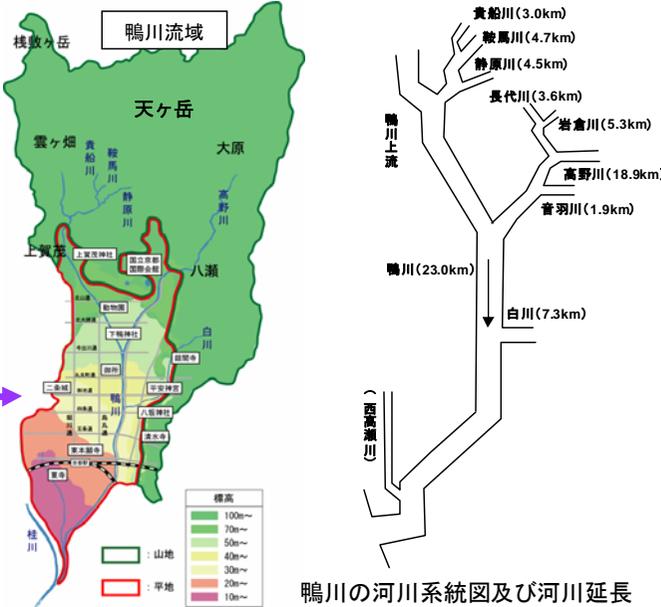
花の回廊

# 1. 河川及び流域の概要（①流域の概要）

## 鴨川の位置



○鴨川は、京都府南部に位置し、京都市内を流れ、桂川に合流する淀川水系の河川である。白川、高野川、鞍馬川などを支川にもつ。



鴨川の河川系統図及び河川延長

## 鴨川の緒元

○鴨川流域の面積は約210km<sup>2</sup>で、京都市民の約1/2が流域内に居住している。

流域面積	約210km <sup>2</sup>
流路延長	鴨川 約33km(管理区間は23km)
	高野川 約23km(管理区間は18.9km)
流域人口	70万人弱(京都市人口は約147万人)

## 鴨川の航空写真

○高度に都市化した京都市を流下する鴨川。



鴨川流域航空写真図

平成16年10月 撮影

# 1. 河川及び流域の概要（②河道の特性）

## 河道の特性

○上流部は山間部を流れる渓流河川である。



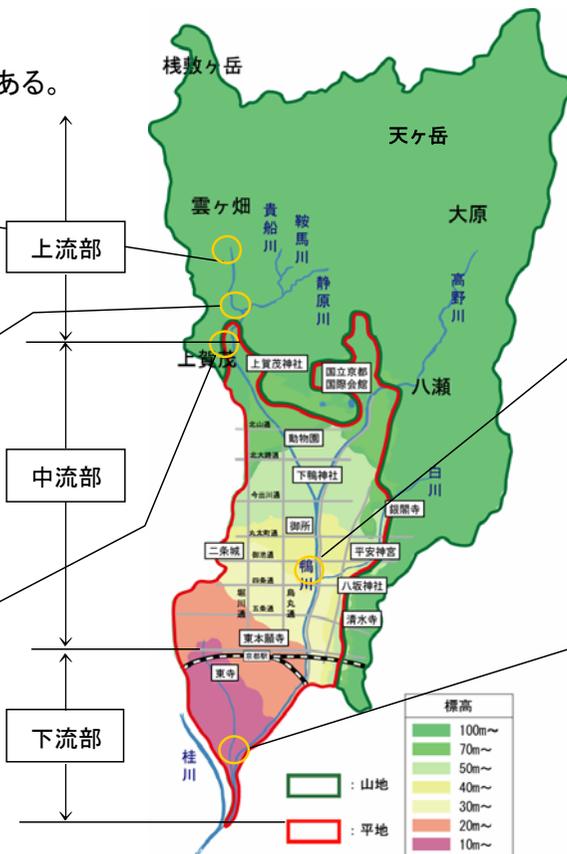
しみょういんひりゅう たき  
志明院飛竜の滝(鴨川源流の一つ)



さんこうはし  
山幸橋付近



ひいらぎのえんてい  
椋野堰堤付近



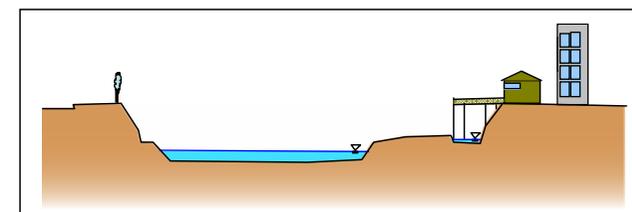
○中流部は石積護岸と床止工を連続的に配した直線的な掘込河川(ただし、高野川合流より上流は築堤もみられる)。



三条大橋付近



西賀茂橋付近の横断面図(イメージ)

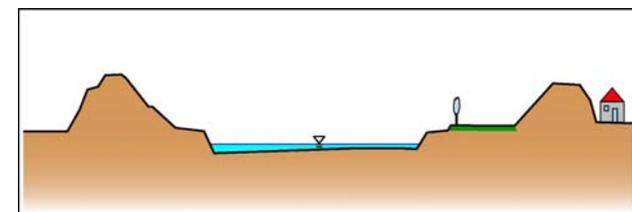


三条大橋付近の横断面図(イメージ)

○七条大橋付近より下流は築堤河川。



新大宮橋付近



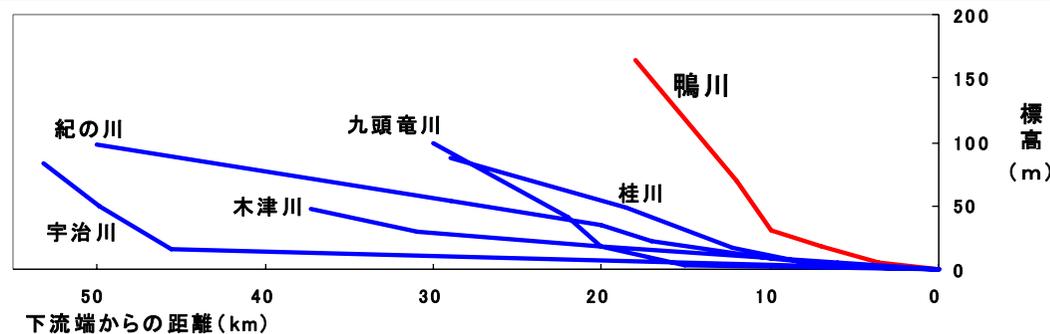
新大宮橋付近の横断面図(イメージ)

## 河床勾配

○上流1/100、中流1/350、下流1/600(平均河床勾配1/200)であり、都市河川としては比較的急流。



鴨川の河床勾配



鴨川と他の河川の比較(縦断面図)

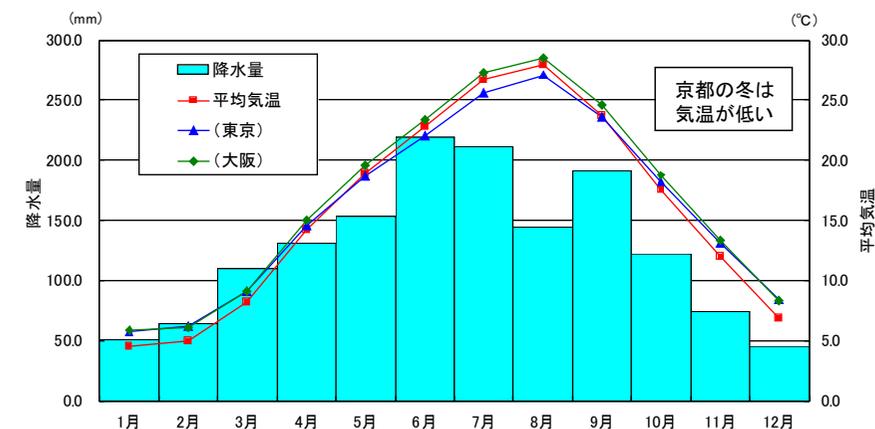
# 1. 河川及び流域の概要（③気象特性）

## 鴨川の気象

○京都市の年平均降水量1515mmで全国平均1718mm(1971～2000年)の9割程度。

○山地部は平野部と比較して降雨量が多い。5～11月(1976～2006年)の降雨量を比較すると平野に存在する京都気象台が948mmに対し、山地に存在する花背峠は1117mmとなる。

○夏蒸し暑く、冬は「京の底冷え」、寒暖の差が大きい内陸性気候。



降水量 (mm)	51.1	64.6	109.7	131.2	153.7	218.8	210.9	144.8	191.8	122.4	74.7	45.1	1516 (年間降水量)
平均気温 (°C)	4.6	5.0	8.2	14.2	18.9	22.9	26.8	27.9	23.7	17.6	12.0	6.8	15.7 (年平均)

(1971年～2006年 京都地方気象台)

京都地方気象台における気温と降雨量

### 「京の底冷え」

3つの山に囲まれた京都盆地では、風の無い快晴の夜に地面の表面から熱が放射されるといふ「放射冷却」が起こり、これに伴った冷気が溜まってかなり冷え込む。これは、「京の底冷え」といわれ、今では都市化が進み少ないが、昔は鴨川に氷が張ることもあった。



冬の鴨川(北大路橋付近)



III d2・・・京都盆地。瀬戸内海気候域にはいる。暑さは府域でもっときびしい。冬は降雪が少なく晴天の日が多い。年降水量は府域では最小である。

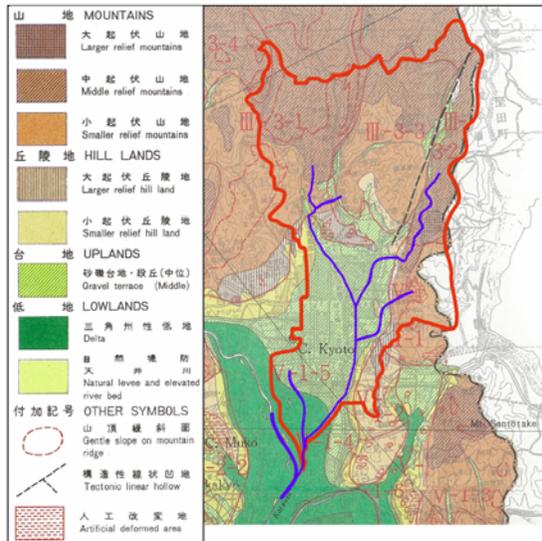
IVb2・・・丹波高原東部。山がちで冷涼な気候区である。各月および年平均気温はつねに府域で最低で、1月の平均気温は1～2℃、年平均気温は12～13℃である。夏は過ごしやすいが、冬は寒く、また降積雪量が多いことで日本海側の気候区に近い性質をもつ。

出典:「日本の地誌 1973」

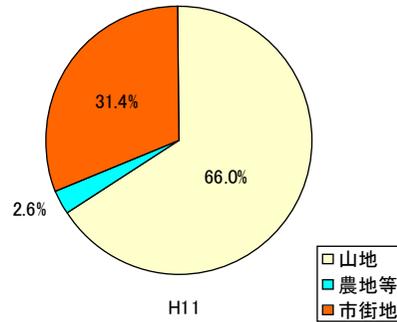
京都府の気候区分

# 1. 河川及び流域の概要 (④地形・地質)

## 地形



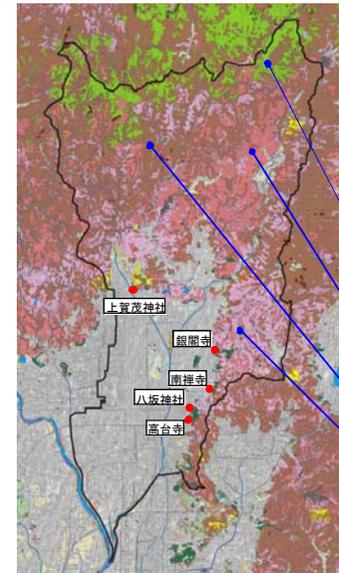
○流域の7割は山地、3割が平地である。



鴨川流域の土地利用

鴨川流域の地形分類図 (土地分類図・京都府(地形分類図))

## 植生



○里山など全体的にコナラなどの温帯性樹種が多く、奥地に行けばミズナラなどの冷温帯性樹種が出現し、尾根筋にはアカマツも多く繁茂している。

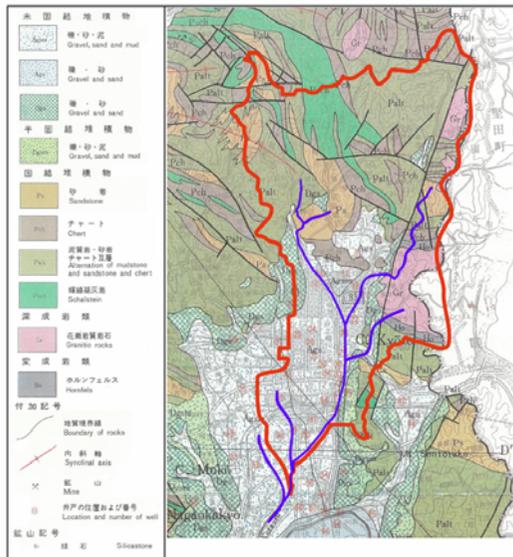
○また、スギやヒノキの人工林も多く、特に東部域では、京都ならではの社寺有林として管理されている。

○森林に対する関心が高く、京都府下では比較的 management されている地域ではあるが、近年、湿った雪による倒木被害が発生している。



第6回植生調査 (1999~2004) 環境省HPより

## 地質



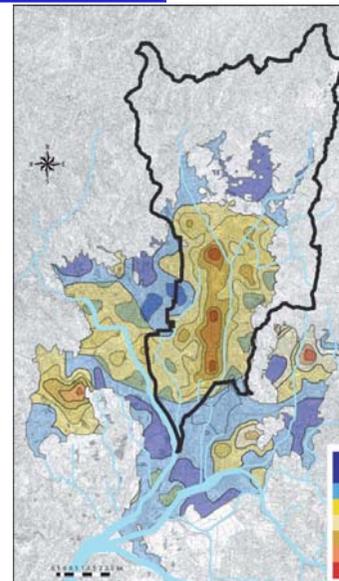
○山地部の地質は中・古生層が大部分を占めるが、支川白川流域においては花崗岩が分布し、かつては白川砂の産地であった。

○急勾配で都市域を流下する鴨川は、土砂供給が顕著であり、整備を進めてきた。

- ・山地 砂防堰堤の整備
- ・河川 床止めの整備

鴨川流域の表層地質図 (土地分類図・京都府(表層地質図))

## 地下水



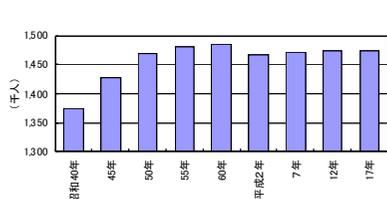
○京都盆地は地下水が豊富な盆地として知られている。鴨川から供給される地下水は、平安遷都以来、人々の暮らしを支えてきた。

地下水深度(表面)分布はボーリングデータより推定 (京都市HPより)

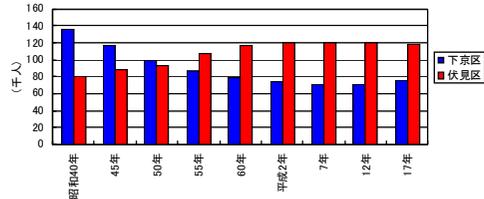
# 1. 河川及び流域の概要（⑤土地利用）

## 流域内の人口

○京都市人口は147万人(H17年)で近年は横ばい。うち流域内人口は70万人弱。  
南部地域は市街化が進行し、人口が増加している。



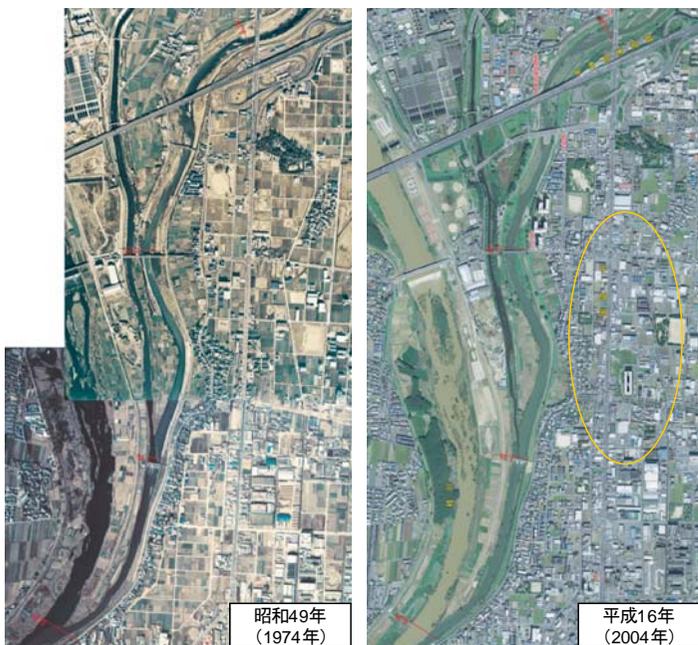
京都市の人口推移 (国勢調査)



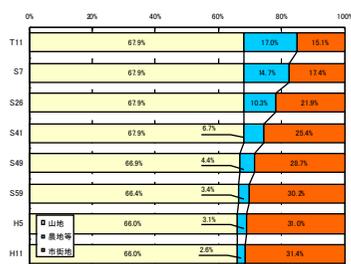
区別の人口推移 (京都市HPより)

## 土地利用

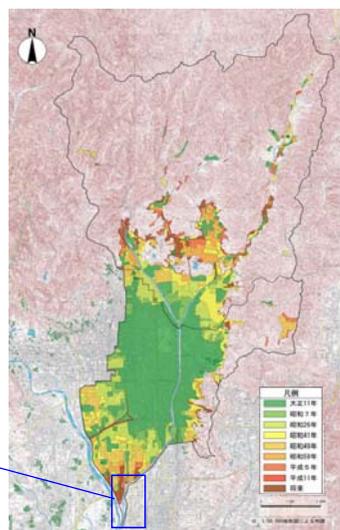
- 山地の面積はほぼ横ばい。
- 平地部は、戦後急速に開発が進展し、平地の90%が市街化。
- 破堤時などに浸水する南部地域で、市街化が進行。



桂川合流付近の航空写真の比較



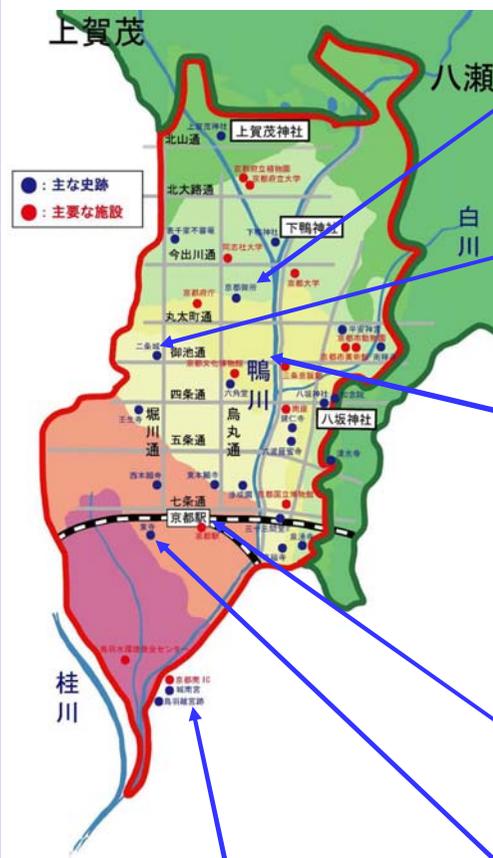
鴨川流域内の土地利用の変遷



鴨川流域内の市街地の変遷

## 流域内の施設

○歴史文化都市京都の中心市街地を抱え、都市中枢機能、人口資産及び歴史文化的遺産が集積。



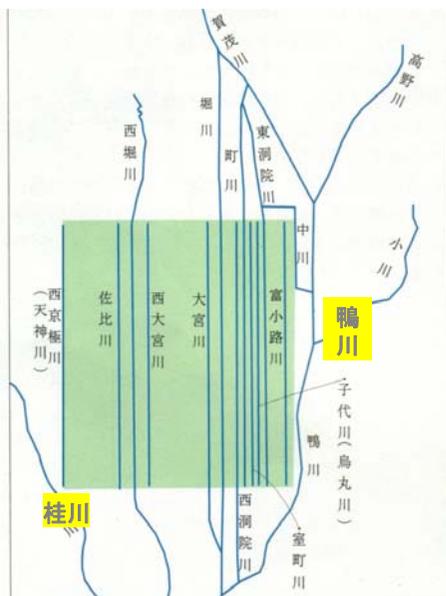
# 2. 鴨川の歴史（①平安京と鴨川）

## 平安遷都

○平安遷都(794年)の際、四神相応の地相でいう「東の青龍」にあたる重要な川。



平安京と鴨川の位置関係



平安時代初期の河川  
出典：京都市河川課広報誌「水鏡」



平安京と鴨川の様子(復元模型) 提供：京都市歴史資料館

## 神聖な川

○鴨川は神聖な川として尊ばれ、その水は宗教的儀式に重宝される。



上賀茂神社

さいおうだいみそぎのぎ  
齋王代禊の儀

齋王代と女人列に参加する40人の女性が鴨川の水で御禊(みそぎ)を行う。  
提供：京都新聞社



下鴨神社

みたらいまつり  
御手洗祭

平安時代の禊ぎ祓いの神事を起源とし、境内の御手洗社の池を30mほど歩み、社前にろうそくを奉納する。  
京都市HPより



八坂神社～四条大橋

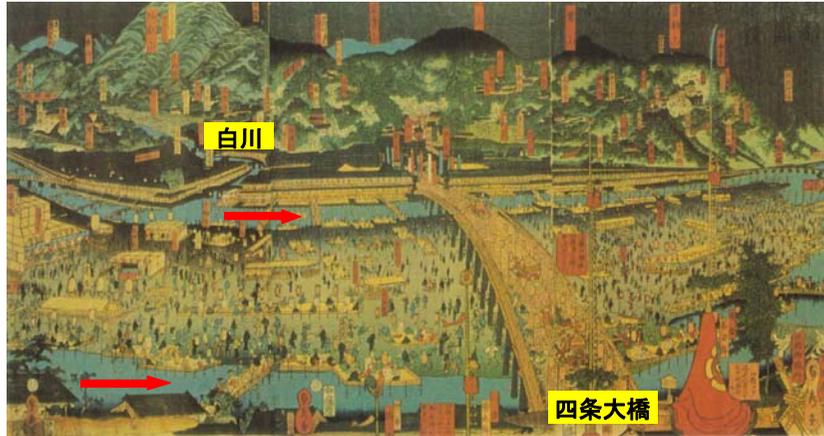
みこしあらい  
神輿洗

御神輿が八坂神社から四条大橋まで運ばれ、当日午前中に鴨川から掬い上げられた神事用水で清める儀式。  
提供：京都新聞社

# 2. 鴨川の歴史（②まち、人との関わり）

## 暮らしの場

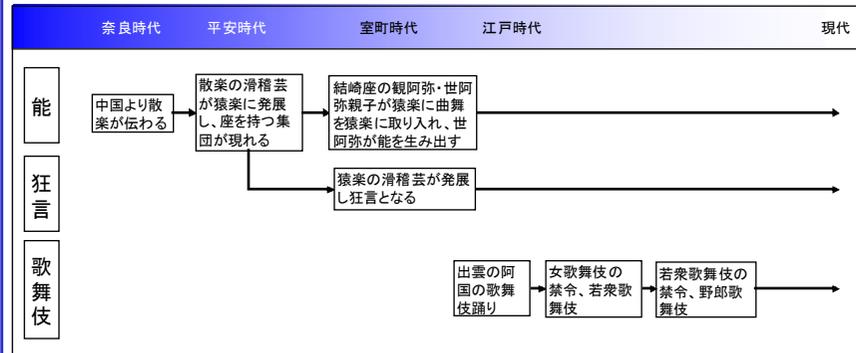
○鴨川の河原は、都における数少ない広い空間であったことから、店や芝居小屋が建ち並び、多くの人々が集った。



江戸時代の四条河原の様子  
玉蘭齋貞秀版画「祇園祭四条河原之涼」出典:「鴨川風雅集」

## 芸能文化

○発達した河原は都市の広場の役割を果たすとともに、善阿弥の庭園芸術、観阿弥・世阿弥親子の「能」、出雲阿国の「歌舞伎」などの文化が生まれた。



現代までの文化の移り変わり



出雲の阿国石像 (四条大橋)

## 水文化

○鴨川の水や伏流水は、生活用水や灌漑用水として暮らしを支えるとともに、京の水文化の源。



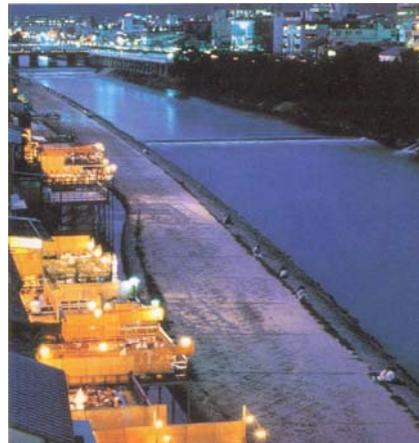
友禅流しは、江戸時代中期に始められた。

友禅流し(再現イベント)提供:鴨川を美しくする会

## 納涼床

○今も続く納涼床は鴨川の夏の風物詩。

現在



江戸時代



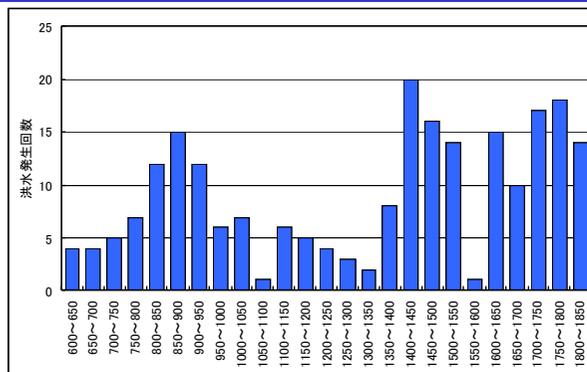
提供:安藤広重美術館

# 2. 鴨川の歴史（③暴れ川であった鴨川）

## 歴史

○鴨川では、平安時代の「防鴨河使(ぼうがし)」、豊臣秀吉による「御土居(おどい)」、江戸時代の「寛文新堤」など様々な治水対策が施された。

○時の権力者が鴨川の治水を重要視していたことから、氾濫を繰り返してきたことがうかがえる。



過去の洪水発生回数(50年毎に整理)  
出典:平安京提要 第二章(横山卓雄教授)



**建暦2年**  
九力国守護に命じ堤防築造

**慶長19年**  
「鴨川」「高瀬川」開削  
京都の豪商・角倉了以は水運を目的として、鴨川や高瀬川を開削し、近世における京都の発展に貢献した。

**平安時代末期**  
白河法皇の「天下三不如意」  
白河法皇は、天下に自分の思いがかなわないものが3つあり、度々氾濫を起こす「鴨川の水」もその一つであると嘆いた。

**天長元年**  
「防鴨河使」の設置  
平安時代に、鴨川の堤防の修復など治水を担当する「防鴨河使」と呼ばれる役職が設置された。



御土居の範囲

**天正19年**  
「御土居」築造  
豊臣秀吉は、洛中の防衛と鴨川の洪水対策を目的に、京都の町を囲う御土居を築造した。



紙屋川沿いの御土居

**寛文9年**  
京都所司代 板倉内膳正重矩による「寛文新堤」築造  
1663年(寛文3年)の鴨川洪水を契機とする寛文年間の大改正により、現在の先斗町を形作る護岸が築造された。



寛文新堤(三条付近) 提供:国際日本文化研究センター

# 3. 最近の取り組み（①鴨川流域懇談会）

## 背景・経緯

○京都の象徴ともいえる鴨川の今後の整備について検討していくにあたって、「①河川の機能面」と「②歴史性や文化性」に着目しつつ、幅広い観点からの議論を行うために、京都に造詣の深い有識者らによる「鴨川流域懇談会」が開催された。

○平成17年3月～平成18年3月まで、計5回開催。

## 「これからの鴨川」に関する提言

### ■安心・安全の鴨川をめざして

○ハード整備とソフト対策が一体となった洪水対策の推進

概ね「100年に1度の確率」で発生する洪水を長期的な目標とし、「河川の適切な維持管理と強化対策」、「流域の保水・遊水機能の保全」、「防災情報の提供や啓発」を推進。

○水害に強い地域社会づくり

水害に強い地域社会づくりのために、「公助」、「共助」、「自助」の推進。また、地下空間の浸水対策や水害対策のための建物構造ガイドラインや土地利用誘導についても検討。

### ■千年の都・京都の美しい鴨川をめざして

○流域における健全な水循環の保全・再生

美しい景観を保全・再生するために、「森林の保全・育成や、雨の浸透対策」、「河川間等の水融通やため池・地下水の利用など、流域全体として既存水源の有効活用」、「合流式下水道の改善、流域における汚濁負荷の一層の削減対策」が必要。

○鴨川と沿川景観の一体的な調和

鴨川の景観を保全、形成していくために、「鴨川の景観を守り育てていく意識向上」、「景観保全のための支援措置」、「条例等により規制・誘導」などが重要。

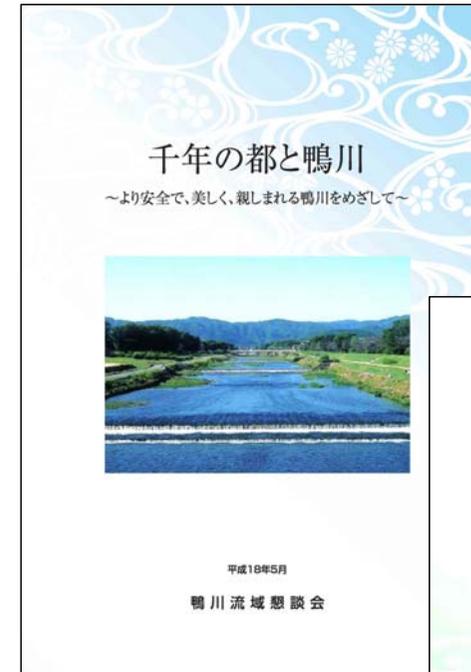
### ■より一層多くの人々から親しまれる鴨川をめざして

○より親しみのある水辺空間として

今後ともより一層多くの人々から親しまれるために、「利便性、安全性に配慮した整備の促進」、「河川内でのネットワーク化による利用促進」、「住民との協働による河川管理」、「外来種対策」、「教育機関との連携」などが必要。

○より一層魅力あふれる川とするために

より一層魅力あふれる川とするために、「鴨川固有の魅力を再認識し、社会全体で共有」、「鴨川を通じて、交流を深める拠点づくり」、「適切な役割分担と継続的な枠組み」が必要である。



目次	
はじめに	1
第1章 京都と鴨川	2
1.1 河川及び流域の概要	2
1.1.1 河川の概要	2
1.1.2 流域の概要	3
1.2 鴨川の歴史	4
1.2.1 平安京と鴨川	4
1.2.2 鴨川とまち・人との関わり	4
1.2.3 厄災を繰り返した鴨川	6
1.3 現在の鴨川	9
1.3.1 鴨川の治水	9
1.3.2 鴨川の河川環境	12
1.3.3 鴨川における河川利用	13
第2章 鴨川及びその流域の課題	15
2.1 流域における水循環の変化	15
2.2 顕発する集中豪雨	16
2.3 水害に対して脆弱な都市構造と地域の防災力の低下	18
2.4 中流域における不釣り合いな周辺景観等	19
2.5 改善が必要な河川環境上の課題	20
2.6 快適な利用を妨げる行為	20
2.7 危険が内在する河川の利用	21
第3章 これからの鴨川	22
3.1 安心・安全の鴨川をめざして	22
3.1.1 ハード整備とソフト対策が一体となった洪水対策の推進	22
3.1.2 水害に強い地域社会づくり	24
3.2 千年の都・京都の美しい鴨川をめざして	24
3.2.1 流域における健全な水循環の保全・再生	24
3.2.2 鴨川と沿川景観の一体的な調和	25
3.3 より一層多くの人々から親しまれる鴨川をめざして	26
3.3.1 より親しみのある水辺空間として	26
3.3.2 より一層魅力あふれる川とするために	27
おわりに	28
参考文献	29

「鴨川流域懇談会」の報告書

# 3. 最近の取り組み（②鴨川条例）

## 背景・経緯

- 千年の都を流れる鴨川を、安全・安心で美しく親しまれる河川として、次世代に引き継ぐために制定（平成20年4月施行）。
- 鴨川・高野川の河川環境の整備と保全のために、歴史と文化的価値を理解した上で、
  - ①その継承、②自然的社会的環境との調和、③適正な利用調整、④府民協働の推進を基本理念とする。

## 具体的な施策・規制

### ■安心・安全の確保

#### ○総合的治水対策の推進

- ①河川の適切な管理と改修、②流域の保水・遊水機能の保全
- ③森林の適切な管理への支援、④防災情報の提供と啓発

### ■良好な河川環境の保全

#### ○鴨川環境保全区域

・鴨川環境保全区域を定め、土地の形状変更行為等を規制（許可制）。違反者へは罰則。

#### ○良好な景観の形成

- ・河川区域内に工作物を設置する者は景観に配慮するよう努める。
- ・府は鴨川納涼床に関する審査基準を景観に配慮して定める。
- ・府は河川に隣接する土地で工作物を設置する人に景観を配慮するよう要請できる。

### ■快適な利用の確保

○自転車等の放置禁止 一定区域での自転車と原付自転車の放置を禁止。

#### ○迷惑行為の禁止

- ・一定区域での打ち上げ花火等、バーベキュー、自動車等の乗り入れを禁止。
- ・すべての区域で落書きを禁止。違反者には罰則が。

### ■府民協働の推進

- ・鴨川府民会議 府、府民、事業者、京都市が河川環境の整備保全に関して意見交換を行う場を設ける。
- ・鴨川四季の日 歴史・文化への理解を深める取組等を促進する契機とするための日を設ける。
- ・府民活動の促進 府は美化活動など自主的、自立的な府民活動への支援を行う。



「京都府鴨川条例」に関するパンフレット

# 3. 最近の取り組み（③鴨川府民会議）

## 背景・経緯

### ■背景・経緯

○流域における土地利用、景観、環境等の分野を所管する京都市と協調し、かつ、府民、事業者等と協働しつつ、鴨川等の安心・安全で良好かつ快適な河川環境を実現するための施策を推進し、もって府民の誇りである鴨川等を後世に引き継ぐため、この条例を制定する。

（京都府鴨川条例 前文より）

○知事は、鴨川等の河川環境の整備及び保全に関する事項について、**府、府民、事業者及び京都市が意見を交換するため、鴨川府民会議を開催するものとする。**

（京都府鴨川条例 第24条より）

○鴨川府民会議の参加者は、鴨川府民会議における議題を提案することができる。

（京都府鴨川条例 第24条より）

○府は、鴨川府民会議における意見交換の内容を参考として、鴨川等の河川環境の整備及び保全に関する施策を実施するものとする。

（京都府鴨川条例 第24条より）

○平成20年2月 第1回鴨川府民会議開催

### ■議題について

#### ○議題

議題の範囲は、鴨川及び高野川の河川環境の整備及び保全に関する事項。河川区域内の事柄に止まらず、鴨川流域全体を視野に入れ、幅広い分野にわたり議題とする。

#### ○議題の設定

鴨川府民会議の参加者からの提案も踏まえて京都府が議題を設定する。

### ■参加者(メンバー)について

公募メンバー、有識者メンバー、京都府の職員、京都市の職員



第一回鴨川府民会議  
の経過について  
鴨川府民会議発足の経過について  
平成二十年二月二十七日

京都府鴨川条例  
平成19年6月府議会で全会一致で可決成立

安心・安全の確保 良好な河川環境の保全 快適な利用の確保

府民協働の推進 府市協調

鴨川府民会議

鴨川府民会議資料